

二宮金次郎像

池松 孝子

先日、小田原で海鮮料理のランチ、名店「外郎」^{ついで}でお茶をし、一日の歩き旅を終えて小田原報徳神社にお参りしてから帰途にと歩を進めた。この報徳神社の金次郎像は、八重洲ブックセンター本店入口に「理想の読書人」として、飾られていたもので、閉店時に寄贈された。

二宮金次郎（尊徳）は今の小田原市栢山^{かやま}の生まれ。再三にわたる酒匂川^{さかわがわ}の氾濫により田畑も屋敷も失った。それからは人一倍勉学に励み、荒地を耕し米を作り、余った米を換金し土地を買い、ついに家を再興した。後には小田原藩家老家、藩主分家、大名旗本などの財政再建、各藩の復興事業に大きな成果を上げた。

幕末から明治にかけて地域の農家が集まり、尊徳の教えを受け継いだ「報徳社」が設立された。報徳思想は積小為大、至誠、勤労などを実践するというもの。農村の復興のための講、互助組織でもあった。

あの薪を背負った二宮金次郎像は弟子の富田高携の『報徳記』の内容からといわれる。幸田露伴の著書『二宮尊徳翁』の挿絵に、金次郎が薪を背負い、本を読みながら歩いているものがあったことなど諸説あるようだが。

では、なぜ全国の小学校に金次郎像が設置されるようになったのだろうか。

修身の国定教科書に載った人物ランキングでは、一位、明治天皇に次いで二位、二宮金次郎、三位、上杉鷹山だった。一生懸命勉強し、家の仕事を手伝う少年、金次郎は模範的な少年として地域の名士などからの寄付で学校の敷地内に建てられた。昭和二十二年以前に作られた学校には必ずと言っていいほど金次郎の石像があった。

数日前、友人から母校の写真が送られてきたが「二宮金次郎像がなくなった」とあった。全国の小学校で老朽化や立て直しにより金次郎像が撤去されているという。子供の働く姿はよくない。歩きながら本を読むのは歩きスマホを助長するなど保護者の意見もあるらしい。さらには戦時教育の排除があるのだろう。